

# 「駐在犬システム」の使用にかかる注意事項

( 駐在犬システムで使用する犬について )

このシステムは**被害の完全な防止を保証する物ではありません**が、設備費が安価で、適正な犬を使用すれば大きな助けになります。導入に当たっては、犬の適性が重要な鍵となります。

1. 駐在犬システム(犬のおまわりさん)で使う犬は、使用者の方に準備していただくこととなりますが、このシステムで活用するには、次のような犬が適しています。

1) **サル威嚇に対しておびえない、中型犬(体重15kg以上)以上であること。**

・小型犬では体格的にサルに負けてしまう恐れがあります。

2) **サルに対して、おびえずに吠えて、向かっていく犬であること。**

・臆病な犬は吠えることはしますが、向かって行かない場合があります。

3) **年齢が10歳以下の、良く動き回る犬であること。**

・年老いた、あまり動き回らない犬は向きません。

4) **犬種や血統(血統書付きか雑種か等)は問いません。**

・純血種か雑種かよりも、犬自身の性格や育った環境による影響が大きいです。

2. 適する犬種の例

・ボーダーコリー、ゴールデンレトリバー、ゴードンセッター、ラブラドルレトリバー、紀州犬 など

・一般的には、中型犬以上で、牧畜犬(ハーディング犬)といわれる種が最も適していますが、

雑種でも上記1. の要件に合う犬であれば、実用上問題はありません。

3. 注意事項

・夜間、イノシシやシカが現れる場合は、犬を夜間は家へ連れて帰り、周囲に電柵をして防除します。

・サルは日の出と共に活動しますので、早朝に犬をつなぐことが必要です。

・犬が届く範囲に、必ず餌や水を飲めるように準備します。日陰ができる場所も用意して下さい。

・このシステムは被害の完全な防止を保証する物ではありませんので、その他の対策(エサ場を無くす、追い払いをする、群れの位置情報の把握等)と合わせて総合的に防除して下さい。

・犬には個体差がありますので、各自で適性を見極め、適した犬をご使用下さい。

別紙の自己診断チェックシートを参考にしてください。

・周囲に対しては、犬を使用している旨の立て札を立てて、注意を促して下さい。

## 駐在犬に適しているかどうかの自己診断チェックシート

- 1 すでにご家庭で飼っている犬が、駐在犬システムに活用できるかどうかをチェックシートで、判断してください。次の1～5の全部に当てはまる犬がこのシステムに適しています。
  - 1 体重が15kg以上ある。
  - 2 サルを見たときに、吠える。
  - 3 サルを見たときに、向かっていこうとする。
  - 4 動き回ることが好き。
  - 5 年齢が10歳以下である。
  
- 2 逆に以下の項目に1つでも該当する犬は、駐在犬システムに適していません。
  - 1 体重15kg以下の小型犬（よく吠える犬でも、体型的にサルに負けてしまう）
  - 2 吠えるだけで、他の動物等に向かっていこうとしない。（臆病な犬）
  - 3 おとなしい犬（体重が15kg以上でも、性格的におとなしい犬は向きません。）
  - 4 運動することが好きではない犬（ふだんからあまり散歩させてない犬や、元々あまり動き回らない犬は向きません。）
  - 5 10歳以上の年老いた犬（人間で言うと60歳以上になります。）
  
- 3 簡単な見分け方（次の2つに当てはまる犬は、最低限の素質を備えていると考えられます。）
  - 1 他の動物（猫、鳥、サル等）を見たときに、向かっていこうとする姿勢がみられる。
  - 2 おもちゃ（ボールやフリスビー等）に対して興味を示す。
  
- 4 その他の参考事項
  - 1 雑種犬では、西洋犬の雑種より、日本犬の雑種の方が向いていることが多い。（西洋犬では、もともとおとなしい犬も多いので、日本犬の雑種の方がよい。）
  - 2 犬の色は、黒っぽい色の方がサルに対する威圧感があるため、向いています。
  - 3 サルや他の動物に対して向かっていこうという姿勢が見られた時は、ほめてやると良い。
  - 4 温暖な地域では、毛の長い犬は暑さに弱いため、避けた方が良いでしょう。もしくは、日陰で休めるところを作って下さい。
  - 5 子犬を購入する場合は、5ヶ月以上の犬であれば、上記の様な適性を判断できます。できればブリーダーに相談するのが良いでしょう。